

1 政治判断 (2014.12.26) について

対立する意見に「高度な」判断 → 名古屋市の基本姿勢
緑政土木は？ 市議会は？

- ・市長の「政治判断」と「構想」は区別しなければ。
- ・前の意見交換会(現地)で「道路について調査検討する組織はもう無い」と道路建設課の人が言っていたのに。なぜ変わったのか。
- ・行政では計画が決まったら、先輩が決めたものを自分の代でやめられないということらしいよ。
- ・市議は計画時と、それ以降との情勢や状況の変化を考えられないのかしら。
- ・変化に対応できない人にはついていけない。信用できない。任せられない。

2 「道路計画を廃止し、緑地整備をすすめるため」の意見交換会
「道路つくれ」は意見交換会への参加資格なし ※

- ・今さらまた調査なんて、それは「道路をつくるための調査」ということだよ。
- ・2回目の意見交換会のときに言っていた「調査」の結果は、どうなったんだろう。
- ・本来の意見交換会に戻さないと進まない。疲れる。←それを待ってる連中もいるから、疲れちゃダメ。

3 「自然を大事に」の中身の論議は、未だ始まっていない

どんな自然か = 雑木林

どう大事にするか 自然生態系⇔「開発」できる限り手を入れない

「オアシスの森」活動 ← 名古屋市の「みどり」政策は「利活用」優先

- ・今すぐやってほしいことと、意見を聞いて検討を重ねていきたいことがある。
- ・市民の意識調査でも、他にもあるような大規模な公園より、散策や自然と親しむことを望む声が多かったはず。整備の必要性は無い。
- ・散策路の安全、補修、巡回。・案内表示が古い。
- ・樹林地の中に人が入っていく。コロナで行き場のない人が相生山へ来るようになって、初めて来たような人が春から急増。何回注意したことか。
- ・トイレの増設はできないか。(稲田口か双子池口あたり)
- ・どんな緑地にするのか。相生山の自然についての評価の基本合意が出来ていない。道路廃止の説明理由にもかかわる。
- ・基本認識の一致もなしにして、構想も計画もありえない。
- ・緑地整備の基本の計画が決まっていないのに、「オアシスの森づくり」が進められているのはおかしい。
- ・自然生態系についての学習抜きに、「好み」の活動が先行している。その傾向が拡大して、好き勝手な行動が止まらない。
- ・意見交換などの手順が進まず、手立てが打たれないままに、大事な自然が壊れていってないか。ヒメボタルの時期の見物人、撮影者による野放図な入り込み。
- ・「ああしたい」「こうだったらいい」と言うとき、それは身勝手なものではないか、自然から見てどうなのかととらえ返さないと、好き勝手な水掛け論に終わってしまう。

4 ※ 説明会 (2019.8提案) で説得 それでも納得できない人びとは「置いていく」しかない時がくるのでしょうか

- ・地元(野並・山根・相生3学区)に情報、説明が届いていない。地元の人でも意外と無関心。特別に利害のある人だけがいろいろ言ってるのでは？
- ・行政は地域の人の意識について、実情調査不足。声の大きな人に惑わされてないか。

5 価値観の転換ができなければ、滅びます

「コロナ禍」「数十年に一度の自然災害」から、何を学ぶか

- ・これまでの人間中心、「便利」「金もうけ」「効率」優先が、いま大変な状況を招いていると思う。考え直して転換しないとダメ。ある意味チャンス。
- ・河村さんの「これまでバンバン道路つくってきた名古屋のまちに、これからは自然を大事にでいこう」とは、今の事態から見ても正しい選択。だから、どうやって自然を大事にするのかを相談して決めなきゃね。